

**製品名: フィラミン A (1R12) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe10988**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.28mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:5000-1:50000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:50-1:200
分子量	281kDa

**抗原情報**

遺伝子名	FLNA
別名	ABP-280; ABPX; actin binding protein 280; Alpha-filamin; filamin 1; filamin A, alpha; FLN1; FLNA; FMD; MNS; NHBP; Non-muscle filamin; OPD; OPD1;
遺伝子 ID	2316.0
SwissProt ID	P21333
免疫原	ヒトフィラミン A の合成ペプチド

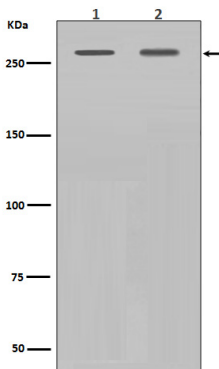
## 背景

アクチンフィラメントの直交分岐を促進し、アクチンフィラメントを膜糖タンパク質に連結します。さまざまな膜貫通タンパク質をアクチン細胞骨格に固定し、さまざまな細胞質シグナル伝達タンパク質の足場として機能します。FLNA との相互作用により、神経芽細胞が脳室帯から皮質板に移動できるようになります。アクチンフィラメントの直交分岐を促進し、アクチンフィラメントを膜糖タンパク質に連結します。さまざまな膜貫通タンパク質をアクチン細胞骨格に固定し、さまざまな細胞質シグナル伝達タンパク質の足場として機能します。FLNB との相互作用により、神経芽細胞が脳室帯から皮質板に移動できるようになります。細胞表面に局在するフーリンを繋ぎ止め、その内部移行速度を調節し、細胞内輸送を指示します（類似性による）。繊毛形成に関与します。血管、心臓、脳器官の発達過程において、細胞間接触および接着結合に関与する。ITAM および ITAM 様受容体シグナル伝達を制御する SYK との相互作用を介して血小板の形態形成に関与し、結果として血小板細胞骨格の組織維持に関与する（相同性による）。軸索誘導過程においては、SEMA3A を介したニューロン刺激によって誘発される成長円錐の崩壊に必要である（PubMed:25358863）。

## 研究分野

細胞生物学

## 画像データ



(1) NIH/3T3 細胞溶解物、(2) HeLa 細胞溶解物におけるフィラミン A 発現のウエスタンブロット解析。